



当然のことを抑える為の「土人」というウソ

政府は沖縄北部高江に、米軍のオスプレイの為のヘリパッド建設を強行している。

それに抗議する住民らに「大阪府警」の機動隊員が「どこつかんどんじゃこのボケ！土人が！」とか、「黙れこら、シナ人」と発言。

元は琉球王国

琉球は島津藩に服属しながらも、清(中国)にも朝貢する独立国。が、一八九七年(明治12)に明治政府は兵を送り「琉球処分」として沖縄県とした。

大戦では沖縄は本土防衛の拠点とされた。しかし、壕に逃げた住民を日本軍は自軍が使う為、追い出すなど、住民を守らなかった。

沖縄を占領した米軍は住民を収容所に閉じ込めた。住居、学校、役場などをブルドーザー

で平ならしにして基地を作った。ハーグ陸戦条約に反して。

サンフランシスコ講和条約で日本が国際社会に復帰する代償として沖縄は米国の支配下に残された。

一九七二年に沖縄は日本に「返還」しかし、基地は返されなかった。

犠牲にされ続けた

このように沖縄は日本の犠牲とされ、負担を押しつけられてきた。

それなのに高江にオスプレイの為の新たなヘリパッドの建設。沖縄県民ならずとも反対するのは当然ではないか？

当然のことを抑さえつけるにはウソが要る。県警トップが「土人だ。抑さえつけろ」と教育したのではないか？皆さんはどう思われますか？

老神温泉にて

群馬県沼田市利根町老神



平和美術展を主催する美術家平和会議の写生会で老神温泉にでかけた。

会社の慰安旅行が盛んだった三、四十年前は賑やかだった温泉街だが、今回はウィークデイでもあり閑散。

温泉街は片品川の谷の中腹にある。温泉街の外れには、片品川の作った分地が広がる。目の前に大きな榎の木。他の木々から離れ、一本だけどーんと立っていた。

ところが、枝が所々黄色に紅葉。「榎の木は常緑樹の筈。うーんこれは何だ」と首をひねっていたら「榎の木にからまった藤蔓が紅葉しているのよ」と同行の方が教えて呉れた。

十月も下旬。田圃はすっかり稲刈りが終わっている。ところどころに稲束が稲架(はさ)にかけられていた。

